

施策評価調書 目標年度(27年度)実績

施策コード I-5-(4)

政策体系	施策名	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	所管部局名	生活環境部	長期総合計画(プラン2005)頁	51
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	地域における環境保全活動の促進	環境教育・学習の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		目標年度(27年度)			目標達成度(%)							
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	25	50	75	100	125			
i	ごみゼロ行動参加者数(人/年)	①	H16	117,419	400,000	361,406	90.4%							
ii	夏の夜の大作戦(キャンドルナイト)への参加施設数(施設)	①	H16	475	2,800	3,053	109.0%							
iii	レジ袋削減枚数(万枚/年)	①	H21	7,855	9,780	8,208	83.9%							
iv	環境教育アドバイザー派遣団体数(団体/年)	②	H16	36	100	137	137.0%							

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等			平均評価
i	概ね達成	市町村等への呼びかけにより参加者が増加し、目標値に届かなかったものの参加者数は過去最高となり、目標値を概ね達成した。		達成
ii	達成	県ホームページでの広報や事業所等への呼びかけにより、参加施設(事業所)が増加し、目標値を達成した。		
iii	達成不十分	マイバッグ持参率は取組開始時より約85%の水準を維持しているが、当初想定した持参率の更なる上積みがなく横ばい状態にあり、目標値を達成できなかった。同様の取組を行う他県でも同じ傾向が見られる。引き続き、事業者、消費者等、市町村・県による3者の協働により取組を継続する必要がある。		
iv	達成	学校や地域などに対する周知等を行ったことにより、派遣団体数が増加し、目標値を達成した。		

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・身近な環境保全活動に取り組むごみゼロ隊(H28年度～うつくし隊)がH26年度から14団体増え、H27年度末で累計1,996団体が登録するなど、活動が広がった。
②	・幼児向け環境劇は、公演先の幼稚園等からの要望も多く、環境保全意識の醸成に大変効果的であるとの評価を受けている。 ・各幼稚園等において、幼児向け環境ワークショップ研修を計6回、それぞれ異なるメニューで実施し、幼児の環境に関する知識が深まった。 ・環境教育アドバイザーを対象とした研修を実施し、環境教育を担う人材のレベルアップを図ることができた。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価
			総合評価
①	ごみゼロおおいた作戦推進事業	35,858	A
	クリーンロード支援事業	17,911	A

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H27.6)</p> <p>・ごみ拾い運動、3R運動、清掃活動等を繰り返し実行、継続していくことが大切である。</p>	<p>○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H27.10)</p> <p>・各々が実施している「点」の活動について、他の団体と連携することで、「線」の活動にしていけるとよい。</p>
--	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	成果と今後の施策展開
A	<p>・各種取組について、県ホームページでの広報や市町村・事業所等への呼びかけにより、ごみゼロおおいた作戦に参加する県民が増加し、県民の環境意識の醸成を図ることができた。</p> <p>・ごみゼロ行動参加者数やキャンドルナイト参加施設数の増加など、県民参加型のごみゼロおおいた作戦の成果を生かし、ステップアップさせた地域活性化型の「おおいたうつくし作戦」を推進し、県民意識の更なる醸成と持続可能な活動基盤を形成していく。</p> <p>・レジ袋削減の取組は、導入後、県民の理解が得られ定着が図れた。持参率の更なる上積みを目差し、引き続きマスメディア等を活用した県民向けの普及啓発を推進する。</p> <p>・県民一人ひとりの環境意識を醸成し、主体的に行動する人材を育成するため、自然環境ワークショップや環境教育アドバイザーの派遣などにより、子供から大人までのあらゆる世代や家庭、学校、職場、地域など様々な場における環境教育を推進する。</p>